不老長寿の願い

22　鉄衣不老之図　大河内正質　一幅

明治十年（一八七七）
紙本墨画淡彩
本紙一八〇・三×九六・一

作者の大河内正質（一八四四～一九〇一）は、幕末の上総国大多喜藩主で、字は飽徳、号は梅僊。明治元年の鳥羽伏見の戦では旧幕府軍を率いたが敗戦し、官位剥奪、大多喜に謹慎となり、さらに領地を没収され佐倉藩に幽居の身となった。その後許され、官位を復してからは、軍職を経て宮内省御用掛となった。まさに激動の時代を生き抜いた人物と言えるが、一方で絵をたしなむ文人的素養も持ち合わせていた。

正質自身から献上された本図は、墨を基調として力強く天にのびる松を描く。「鉄衣不老」という画題は、鉄衣（鎧、つまり武士の魂）は衰えることはないという意味に解釈でき、「蒼松不虔色」という賛文からは、青々とした葉をつけ生命力に満ちた松のイメージが伝わってくる。この松の根元には艶やかな霊芝が姿をのぞかせている。この霊芝とは、マンネンタケと呼ばれるキノコのことで、北半球の温帯地域に広く分布し、広葉樹の根元に生じ、古来より煎じて飲み、万病に効く薬とされる。そのため、長寿を保つ瑞草と考えられ、吉祥画題としてもしばしば描かれてきた。本図のような霊芝、松、岩の取り合わせは、「芝仙延年」という不老長寿を意味する吉祥画題として文人画によく描かれた。またマンネンタケの形を模した如意（仏教や道教で用いられる、孫の手のような道具）は、霊芝如意と呼ばれ、吉祥如意（物事が思い通りになる）の象徴として、貴石や金銀、唐木などで細工を尽くしたものが置物としても数多く作られている。霊芝と松を組み合わせて描いた図も、やはり文人画家たちの好む「萬年如意」という画題であった。このように、霊芝は長寿、そして吉祥の象徴でもある。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

寿ぎの品々を読み解く
三の丸尚蔵館展覧会図録No.75

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan